



前・長生村長

石井としお通信

ホームページは「石井としお」で検索

2015年1月 第104号

石井としお後援会

長生村七井土 1387-2

電話 090-3094-0321

幸福の科学大学は不認可・私塾で開学

「小宮山伸廣・共同代表」

新年おめでとうございます。



昨年(2014)の4月に行われた村議会議員選挙で、ましこ、石川、立川、鈴木博氏の「推薦と支持」を皆様に御願いし、おかげ様で全員当選しました。今後は公約実現に向けて力を入れることとなります。12月の国政選挙では自民党が引き続き国政を担うことになりましたが、国民全ての方々に課税する消費税10%の引き上げを伸ばしたものの2017年4月には引き上げする。と言っています。さらなる景気の低迷を心配しています。今年も4人の「推薦・支持」議員と、協力関係にあります山口議員とも力を合わせ一年間活動してまいります。

各地を巡ってみたいと思います。昨年は酒々井町、青森県六ヶ所村、大間町、東京都八丈町、青ヶ島村などを視察してきましたが、特に力を入れているのが、脱原発を目指す首長会議の活動です。チェルノブイリでは事故後4年を経た頃から子供達の甲状腺ガンが多発しています。国内的にもこれからが心配です。今後もしかりなことを通信でお知らせします。以下、石井としおの報告です。

何か変です。12月議会 25年度一般会計が認定

私が村長のとき「幸福の科学に課税しなかった」という理由で一般会計の歳入歳出が「不認定」とされました。24年度、小高村長は一度課税したが撤回し、25年度は境内の土地16ヘクタールに課税せず、寄付1億円を受け入れたので「不認定」と思いましたら、12月9日の議会では以前「不認定」の態度をとった議員が「認定の態度」でした。態度を変えるなら、変更理由を議会の中で明らかにすべきです。

「不認定」の立場では鈴木征男議員が①幸福の科学から寄付一億円を受け入れたこと。②国保会計に一般会計から繰り入れしていないなどの理由で「不認定」の意見を述べました。賛成多数で25年度の一般会計は「認定」となりました。

次に一般質問は5名の議員が行いました。議員より、幸福の科学大学の不認可に対する、小高村長への質問がありましたので概略であります。報告をします。



—12月・伊豆の八丈島にて—

「石井としお」

村民の皆さま、明けましておめでとうございます。産業祭りや健康診断などで役場に行ったときなど、皆さまから暖かく、お声をかけていただきありがとうございます。今年も村づくりを研究し、

科学大学の不認可を問う

Q 幸福の科学大学は文部科学省から不認可決定された。「根底に学問性が認められないので最大5年は認めない」とのこと。なぜ不認可となったのか、この結果を村長はどう考えるのか。

A 不認可の理由ですが、大川隆法の霊言が学問として認められなかったのが理由と考えます。不認可をもって、不安に思ってきた住民はホッとしている反面、組合を作って商圏の拡大を目指してきた商工会の方々は残念に思っているかと思えます。大学の是非は申し上げられない。

Q 議会は文科省に対し「大学建設は慎重にしてほしい」と、意見書を提出しています。村長は大学設置を歓迎しているようだ。大学不認可の決定をみて村長はどんな態度をとるのか。

A 大学については「反対も賛成もある」ことを文科省に報告した。私としてはどちらともいえない。当面の間は大学として申請をしつつ、私塾として開学し塾生を集めるようです。村民に不利益がないよう、毅然とした態度で接したい。

Q 学校法人への27年度課税をお聞きします。

A 学校法人への課税は平成27年の1月1日現在の現況に対して課税するものです。大学予定校舎は26年度末が完成ですので土地だけが課税対象となります。26年度と同様となります。



—幸福の科学・私塾予定建物—

「ハッピーサイエンス ユニバーシティを開校」

10月30日の千葉日報の記事によると小高村

長は「大学ができれば若い人が来てにぎわいが期待できたので、不認可は残念な思いもある。」とのこと。12月9日の議会冒頭には「幸福の科学大学が不認可となり学校法人として運営ができないので私塾として、ハッピーサイエンスユニバーシティを開校すると聞いている。」との報告をしました。

幸福の科学関係者からは「大学開校の予定学部だった①人間幸福学部②経営成功学部③未来産業学部の3つを勉強していくことになる。」とのこと、つまり私塾として開校するそうです。

宗教、学問の自由は認めますが、当初の学長予定者の大川氏は科学的に証明されていない霊言から学ぶことを基本とし、幸福の科学の政党である幸福実現党は、原発再稼働や防衛費倍増、非核三原則の撤廃、核兵器の保有などを主張しています。とても賛同できません。また、大学建設反対の請願を村議会が採択していますし、幸福の科学は文科省の判断決定「最長5年までは許可しない」を厳粛に受け止め、村民に不安をもたせない宗教活動をする予定です。



—12月7日・憲法を考える講演会—

ひとらしく生きる権利

12月7日、大網白里市の保健文化センターで「オスプレイよりバターを！憲法を考える講演会」が開催されました。講師は元東京都国立市長の「上原公子(ひろこ)」さん。上原さんは議員と市長8年を経験し、現在、「脱原発を目指す首長会議」

の事務局長をしています。市長時代、市の職員や市民、議会にも常に憲法を頭に入れて仕事をしてこられた方です。

今回の講演は具体的でわかりやすく大変好評でした。上原さんからは「日本国憲法は戦争しない、基本的人権が大事だと書かれていて、民主主義社会を作ることになっています。人らしく生きる権利が保障されているのです。そのことを主張するのは私たち一人一人です。今回の国政選挙は沖縄方式で考えてみたらどうでしょうか。幅広く考え、憲法を大切にする方に投票しましょう。」とのことでした。講演を聞いた方からは「とても分かりやすかった。来てよかった。」との声を多数お聞きしました。(上原さんと握手)



憲法が花咲き、基本的人権を活かし、人らしく生きることを主張して行くのは私たち一人ひとりの姿勢と権利だということを学びました。

八丈・青ヶ島を視察

12月3日～5日にかけて、人口の少ない自治体の経営を見に八丈島と青ヶ島に行ってきました。八丈島は人口7951人、役場職員は165人。副町長からは「この島はかつて新婚旅行でにぎわったが伊豆諸島全ての観光客は減っている。役場職員の8割は島外からの採用です。」とのことでした。決算書から見ると町民税が予算の10%で、厳しいのでは、とお聞きしますと「地方交付税と都の補助金でやれています。」とのこと。

次に、火山島を利用した地熱発電所を見学しました。係員からは「地下1500メートルまで掘り下げ地熱を取り出し20年間使っています。島の電力で計算すると25%を賄っている。将来は

80%まで地熱発電所で賄いたい。」とのことでした。



—蒸気が噴き出す地熱発電所—

人口が一番少ない村

青ヶ島には、八丈島からヘリで行きました。面積6Km²、人口165人、役場職員は22人。村長は60票で当選、議員は15票で当選するとのことでした。この人口でどうやって自治体経営をしているのかお聞きしますと、村長は「村民税は予算の2、8%、他は地方交付税と都の手厚い補助金と交付金でやっている。役場職員は3人を除き全て島外からの採用、島民の3割が島の方、仕事は建設業、農業、漁業、民宿、学校の先生など。商店は一軒、居酒屋2軒。なかでも島の芋焼酎が人気。」とのことでした。

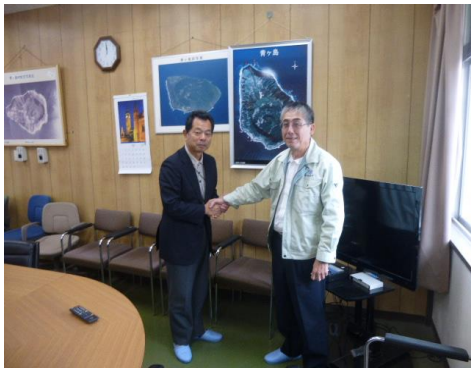


この小さな島も日本創生会議が指摘した「全国896」の自治体消滅に入るのではと、心配しまし

た。居酒屋にきた年配の女性は「島は人情があるので、島に残っている。」とのこと。また、子供達は中学校を卒業すると都内の高校に進学、介護を必要とするお年寄りには八丈の老人施設に入所する。とのことでした。

二つの島を見て思いました。地方交付税と都

の手厚い補助金と交付金で経営ができていて、自由に使える財政積立金も7億～8億円でした。



長生村は「10億円」です。長生村は東京までの通勤圏であり、国道、駅、海もあります。子

育て支援の充実、お年寄りが心配しないで暮らせる村を作れば、村は消滅しない確信をもち、帰ってきました。

—参考・24年度決算資料より—

自治体	面積	人口	地方税比率	積立金
八丈町	73 K m ²	7951 人	10%	7億円
青ヶ島村	6 K m ²	165 人	2.8%	8億円
長生村	28K m ²	14543 人	31%	10億円

ナフコ開店に向け説明会

10月4日、12月14日、七井土に進出する「ホームプラザナフコ開店」に向けた住民説明会が七井土自治会館で開かれました。

Q 開店後の資材搬入は6時30分から。開店が7時とのこと、子供の通学時間と重なるので開店時刻を7時30分にし、警備員の配置を願う。

A 開店時刻は7時ですが警備員を6時45分から8時まで配置する。(後日文書で回答)、尚、工事期間中は7時から7時30分まで工事車両の出入りはしないこととします。

Q 国道からナフコへの道路侵入を伺います。

A 全ての車両は、左折で入ってもらいます。一宮方面から右折することはさせません。

Q 七井土自治会への進出協力金は。社員雇用数と採用の場合は村内雇用を優先してほしい。

A 七井土自治会への協力金は要請があれば検討する。従業員はパートなど50～60人、実質30人くらい。村内雇用を優先します。

※12月10日、近隣住民と七井土自治会の連名で県に対し「開店時刻は7時30分、誘導員は警備員をつけること。」の意見書を提出しています。

この間の、七井土自治会と地元議員の方々にご支援を頂いたことに感謝しています。

村民の声・「私塾への不安」

幸福の科学大学が不認可となり、「ハッピーサイエンスユニバーシティ」という「私塾」を開くようです。「ブラックボックス」となり心配です。幸福の科学はオウムのような危険教団ではないか？ 塾で何を教えるのか？ 幸福実現党が主張する巡航ミサイルや、核兵器の開発につながる勉強だと困ります。大学なら国が、専門学校なら県が、関与することが望めます。私塾では「野放しでブラックボックス。」誰が関与して安心だと教えてくれるのか？ 村はヒトゴトのような態度を感じます。村と幸福の科学で協議し、情報公開を徹底させることを望みます。

編集後記

★12月14日の衆議院議員選挙は自民、公明が大勝し共産党も倍増した。しかし、アベノミクスへの評価は少ない。安倍総理の巧みな演説「地方を元気にする。」「デフレを脱却した。」でも格差は広がっています。安倍総理が言う「企業減税の実施と2017年4月の消費税増税(10%)。集团的自衛権行使の法整備を行い、戦争ができる国へと憲法を変える。原発再稼働する。TPPを推進する。」は大問題です。

★12月、村が発注した一松の避難施設築山工事で、ダンプの荷台に挟まれ作業員が死亡するという、悲しい事故が発生しました。今回の事故に対する村の安全指導・監督責任は、どうなっているのか検証が必要かと思います。